

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-175187

(43) 公開日 平成11年(1999) 7月2日

(51) Int.Cl.⁶

G 0 6 F 1/16

識別記号

F I

G 0 6 F 1/00

3 1 2 F

審査請求 未請求 請求項の数1 書面 (全 2 頁)

(21) 出願番号 特願平9-369929

(22) 出願日 平成9年(1997)12月15日

(71) 出願人 598014135

小谷 哲朗

富山県高岡市西海老坂574

(72) 発明者 小谷 哲朗

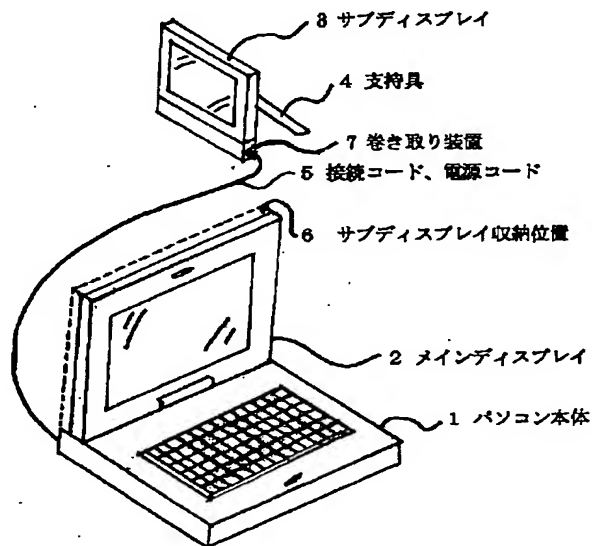
富山県高岡市西海老坂574

(54) 【発明の名称】 サブディスプレイ付ノート型パソコン

(57) 【要約】

【課題】 ノート型パソコンを操作しながら、ノート型パソコンのディスプレイを自分以外の人に見せやすいようにすることが課題である。

【解決手段】 ノート型パソコンのディスプレイの他に着脱自在のディスプレイを取り付けた。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ノート型パソコン、ワードプロセッサ等の本体（1）のメインディスプレイ（2）の他に着脱自在のサブディスプレイ（3）を1つ以上設け、本体と接続コード、電源コード等（5）で接続したノート型パソコン、ワードプロセッサ

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、ノート型パソコン、ワードプロセッサ等に本体のメインディスプレイの他に着脱自在のサブディスプレイを設け、本体と接続コード、電源コードで接続したノート型パソコン、ワードプロセッサに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、ノート型パソコンは外出先で商談や会議でのプレゼンテーションなどに用いられているが、パソコンを操作しながら、相手にディスプレイを見せたいときは、その都度、パソコン操作を中断して、パソコン本体のディスプレイを相手の見やすい方向に向きを変えなければならなかった。また、ノート型パソコンには、ビデオ端子付のものが有り、外部のテレビやビデオプロジェクタに接続できるものがあるが、外出先などにおいてテレビ等がない場合、その効果がなかった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、それらの欠点を解消するために、メインディスプレイの他に、さらにもう一枚、パソコン本体から着脱自在のサブディスプレイを設け、携帯に便利のように収納することを課題とした。

【0004】

【課題を解決するための手段】複数のディスプレイをもったノート型パソコンを携帯に便利にするためには、収納時はメインディスプレイの裏面にサブディスプレイの表面を重ねられるようにした。

【0005】

【発明の実施の形態】本発明は以上のような構成であるためサブディスプレイがノート型パソコンに取り付けられても、携帯に便利であり、サブディスプレイは着脱自在であるため使用するときには、相手の見やすい方向に自由にサブディスプレイの向きを換えることができる。

【0006】

【実施例】本発明を実施するために、ノート型パソコンのメインディスプレイの上にサブディスプレイを重ねて収納し、サブディスプレイの使用時には、メインディスプレイからサブディスプレイを取り外し、サブディスプレイの支持具によって立たせ、パソコン本体とサブディスプレイを接続コード、電源コードで接続する。接続コード、電源コードに関しては、サブディスプレイに巻き取り器を設けたり、パソコン本体に収納スペースを設ける。また、サブディスプレイをパソコン本体から着脱自在にしない場合には、メインディスプレイの裏面にサブディスプレイの裏面が背中合わせになるよう固定する。

【0007】

【発明の効果】ノート型パソコンにサブディスプレイを設けることによって、外出先などにおいて、パソコンを操作しながら、他の人に、パソコンのディスプレイを見せることが容易になり、また相手がサブディスプレイに画面タッチすることによって、パソコン本体に入力できるようにすれば、簡単な情報交換も可能になる。

【図面の簡単な説明】

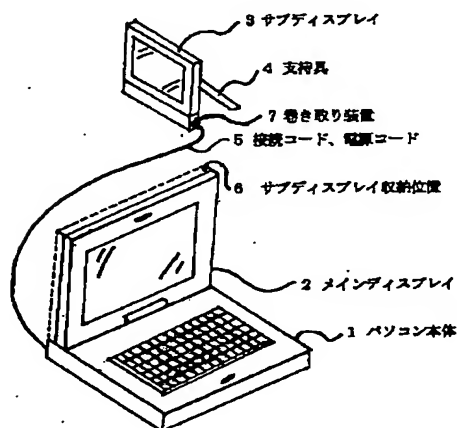
【図1】サブディスプレイ使用時の本発明の斜視図

【図2】サブディスプレイ収納時の本発明の斜視図

【符号の説明】

（1）はパソコン本体 （2）はメインディスプレイ
（3）はサブディスプレイ （4）は支持具 （5）は接続コード、電源コード （6）はサブディスプレイ収納位置 （7）は接続コード、電源コード巻き取り装置

【図1】



【図2】

